

小学校におけるアストロバイオロジー教室の実施報告

Report on the Astrobiology Class at a primary school

笠原 慧 [1]; 村山 真紀 [2]; 成田 憲保 [3]; 平沢 達矢 [4]; 木村 (勝) 由美子 [5]; 本間 典子 [6]

Satoshi Kasahara[1]; Maki Murayama[2]; Norio Narita[3]; Tatsuya Hirasawa[4]; Yumiko Katsu-Kimura[5]; Noriko Homma[6]

[1] 宇宙研; [2] 立教大学・理・CBLS; [3] 東大・理・物理; [4] 東大・理・地惑; [5] お茶大・院・生命科学; [6] 東大・院・医・細胞生物学

[1] ISAS/JAXA; [2] CBLS, Rikkyo Univ; [3] Dept. of Physics, The University of Tokyo; [4] Univ. of Tokyo; [5] Ochanomizu Univ.; [6] none

2008年11月から2009年1月にかけて小学校で展開した、アストロバイオロジー教室について報告する。アストロバイオロジーは、天文学や惑星科学、生物学といった幅広い研究分野にまたがる学問であるため、教育カリキュラムの中で断片的に学習せざるを得ない各科学分野の内容を、「宇宙と生命」という大きなシナリオの中で融合させて語ることができる。本活動は、アストロバイオロジーを題材とし、様々な研究分野の若手研究者が協力して行う萌芽的な科学教育の試みであり、2005年から活動を行っている。今回は千葉県船橋市立高郷小学校の5年生を対象に授業を行った。今回の試みの特色として、(1) 年度をまたいだ2部構成を仕掛け、今回の取り組みをその前半と位置づけた事、(2) 実物の化石を見せたりその場で実験を行ったりすることで授業のインパクトを強めた事、(3) 前年度に作成した独自のテキストを原案として用いることで効率よく準備を進めたこと、(4) ただし前年度からの講師陣の変更に伴う柔軟なカリキュラム変更を行った事、(5) 給食/昼休みを利用して児童と触れ合う場を設けたこと、などが挙げられる。これらの特色について解説しながら、今回のアストロバイオロジー教室活動全体を紹介し、今後の可能性についても考察する。